

信友

信友会事務局

東京都渋谷区東1丁目32-13
ビル・ナミキ橋
電話 03-3407-1192

孤独

信友会会長 田中邦明



人間五十年、下天の中を比べれば、夢幻の如くなり……。これは織田信長が勝を信じて桶狭間に立つ直前に舞った謡の一節である。つい昭和の半ばまでは人生五十年と言っていたが、最近は榮養と薬の影響によるのか、寿命が八十近くまで伸びる時代になった。

然し、そうは言っても皆が皆長生きするとは限らない。テレビで老人ホームの実態を見ていると、夫が妻か何れかが欠けている老人が如何に多いかが分かる。これが現実の世の中である。私もその部類でまだ七十まで間があるのに、人より早く妻を亡くし独り身になってしまった。すべて運命と諦めてみたものの、会社を辞めたら旅行でもして楽しむようではないかと話合った矢先のことでその夢も泡の如く消えていった。皮肉にも会社を退いたその日を、待っていたかのように発病し、大手術のあと一年も経ずしてあえなく他界してしまっただけだ。

た。小学校の頃より先生や友達から二人息子の甘えん坊!と言われたが、その時は何とも癪で仕方ない思いをしていた。又多くの友達や兄弟や姉妹を持っていたのが羨しくてたまらなかったが、孤かなるが故の悲哀を身に沁みて味わった。

下つて昭和十九年、嫁を貰うことになったが、この時は初めて身内が出来て孤独からも抜出した思いがした。然しこれも僅か四年しか続かず露の如く消え去った。最愛の妻が二人目の子供を産んで間もなく発病し、翌年の十二月八日他界してしまつたからである。初めの孤独に戻り、遺された二人の子供は郷里の母に託し、單身市ヶ谷の復興局独身寮で孤空の日々を過ごしていた。丁度隣の部屋に先輩の益田さん(後の東方総監)が居られ、毎夜習いたての基に打奥居して無夢を紛らわしていた。

先妻の三四忌が終わって間もなく再婚話が持ち上がり、まだ若かったし孤独から抜出したという気持ちもあつて再婚を決意したが、これも三十五年の命で、還暦を目前にした後妻が先に逝つてしまひ結局元の孤独に戻つた。

つづくと思ふに、これが私の背負つて来た運命だったのである。若き時ならまだしも、老境に入つてからの孤独生活は実に惨めなものである。如何に叫んでも決して解消するものではない。最近になって漸く心も落ち着き、又心の持ち方次第だということを知つた。笑つて山を仰げば、山亦泣く。泣いて水声を開けば、水亦泣く。以つて独り者の座右の銘にしてもよいような味のある句である。男じやないか、寂しいとか、哀れだとか言つてもどうにもならぬことを口に出さずと心に決めて生きて

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

参議院議員再出発を期して

参議院議員 永野茂門



信友会の皆様、私も皆様方の御支援、御協力をいただき、議員生活五年を数え、本年はいよいよ最終ラウンドに入りました。参議院では今、内閣委員会、外交・総合安全保障調査会、かつ更に予算・委や決算委にも所属し、また党では国際局、通信情報局や内閣、国防、外交、科学技術の各部会などの部会長や副会長として、自衛隊の地位の向上、自衛隊員の処遇改善等に努力して参りました。また第二次海部内閣では科学技術政務次官を拝命し、宇宙開発、地球環境、原子力等

技術の振興に精進して参りました。この間に賜りました信友会の皆様の御指導御鞭撻に対し深甚なる謝意を表するものであります。さて、平成の年を迎えて以来、世界はその名に背き、正に激動の連続でありました。これも平和な二十一世紀を迎えるための胎動でありましょう。日本も新しい世界新秩序建設のため、国際的な国家としての役割を果たさなければなりません。「繁栄」か「孤立」かの選択を誤らないようにしなければなりません。

私も日本の進路を正しく導く一翼を担うため、来年度の参議院選挙には、再び出馬する決意を固めました。信友会の皆様は、私にとって一番気兼ねのいない同志であります。今後とも引き続き御支援御協力の程お願い申し上げます。信友会総会で再会できる日を楽しみにしております。

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

陸上通信
トピックス
陸幕通信電子課
総括班

一、はじめに
通信電子課は、現在検討されている次期中期防衛力整備計画及び平成三年度予算概算要求において、二〇〇〇年代における陸上通信の充実を期して各種の事業を計画しているところであり、その実現にむけ鋭意努力しております。

二、二〇〇〇年代における陸上通信システムの検討
通信に関するニーズはますます多様化する傾向にあり、次期中期間においては現行通信システムに加え、陸自データ通信システム、整備及び駐屯地交換機との電子交換機への換装等の事業を引続き実施するとともに、新たに指揮所の近代化(陸自指揮システム一方面隊固定型)事業の整備に着手することになります。

また、伝送路については今後大容量、高速の通信・データ処理能力及び秘匿機能の強化が求められるとともに、通信のマルチメディア化に対応することが必要となり

27周年総会・懇親会の御案内

- 【お願い】
出欠について同封のはがきで御返信下さい。
- 一、日時 平成3年3月2日(土) 16時より
二、場所 東京東豊島区西池袋3-21-12 電話 03-3987-0211
三、会費 九、〇〇〇円(会場費は別途)
四、総会議題(予定)
(一) 会則の一部改正について
(二) 会長の選任について
(三) 会計報告

信友会27周年記念の総会及び懇親会を左記のよう実施いたします。また懇親会は恒例により、現役と共催で行います。

会員の皆様の奮つての御参加を希望いたします。

一、DDN衛星通信の運用開始
平成二年十月三十一日、仙台、伊丹、呉の三局の運用開始により、今後共御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

二、二年度のトピックス
以上将来の通信システム及びトピックスを紹介させていただきます。通信電子課といたしまして、将来の陸上通信の一層の向上のため、引き続き努力してまいります。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

三、二年度のトピックス
以上将来の通信システム及びトピックスを紹介させていただきます。通信電子課といたしまして、将来の陸上通信の一層の向上のため、引き続き努力してまいります。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

四、おわりに
以上将来の通信システム及びトピックスを紹介させていただきます。通信電子課といたしまして、将来の陸上通信の一層の向上のため、引き続き努力してまいります。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

即位の礼に伴う通信支援
平成二年十一月十二日、国家行事として即位の礼が挙行されましたが、これに伴い外国要人等の空輸及び礼式等支援のため、十一月六日から十八日の間、東部方面隊内の通信科部隊、通信団及び通信補給処が歴史に残る所要の通信支援を実施し、無事終了することができました。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このような状況から、二〇〇〇年代における陸上通信システムは、IDDN伝送路を基幹網として、これに将来の野外地通信網を形成する師団新通信システム(DICS)及び方面隊新通信システム(AICS)を有機的に接続するとともに、個別の各通信システムを整理・統合した総合的なネットワークとすることが必要となります。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

このように、中央から野外の一端までいたるまで、各通信メディアが連綿と接続できることが重要であり、これをいかに可能にするかがシステム構築上の課題となっております。

信友会の皆様におかれましても、引き続き御支援のほど宜しくお願い申し上げます。

平成の人生

熊谷能春

定年後の生活は3年目、生きて
いることの素晴らしさをいま噛み
しめている。

自衛官生活36年、この間、正直
言って自分の人生を生きて来たとい
う実感は殆ど感じられず、私は
自衛官だ、任務だやれ命令だ、果
ては寝るのさ仕事だといった具
合で、四六時中常に、身分、階級
や、地位等がどつと念頭にあつ
て、自分を挟み余地は無かつた、
これが昭和の私の人生であつた。

平成元年正月、自己の効果を
高めるために、教育的なライフ
セミナーを受け実質的に新しい人
生のスタートとなった。

つい先頃、結婚披露宴の挨拶で
花嫁(姪)さんに「夫が求める女
性像あいうえお」愛情・愛敬・
明るさ。色々。初々しさ。笑顔と
思いやりを身に付け、幸せな新婚
家庭を」と祝辞を述べたが、これ
に肖つて、私が「定年後の人生を
歩む男性像」について行で纏め
てみた。

○わー若々しさ。 齢を重ねる程
に欲しいのが若々しさだと思ふ。
NHK TVで見た92歳の老職人が、
非常に若々しかった。希望を持つ
ことと、損得に拘わらないことが
彼の若々しさの秘訣だ。

○おをー 男らしい優しさ。
奥義の追求。

○いー 生き甲斐。 労働力。
○うー 敬い奉仕する。

○えー エンジョイ。 笑顔。
○おをー 男らしい優しさ。

自ら選択した造形物(目的・目
標)を創造するために、時間・金・
技能・体力等の制約に打ち克ち、
自己統制により希望を持ち続けた。
自由な生き方、自発性ある行動力、
精神的な豊かさ、健康も若々しさ
には欠かせない。ベルリンの壁を
取り去った後も、元東独の人々は、
陰のある表情、しかも活気に乏し
い挙動動作等で即刻西独の人々と

見分けられそう。

自由の無い生き方は若々しさも
奪う。平瀬田中(小平市名誉市民)
の言う「いまやねばいつでる。
わしがやらねばだれがやる」人生
において今自分がやるべきこと

に責任をもつ生き方に共感する。
希望を持つこと、物に拘わらない
自由な生き方、自ら判断し行動し
責任を取る自発性等は肉体的健康
の向上に役立ち若々しさを与えら
れ、人生で自分が本当に欲しいもの
である。それが何か深く掘り下げて
明確に、具体的に、肯定的に決め
ることが重要。「パティで恥を
掻かぬためにダンスする」のよう
に否定的なものを避ける。労働
力。家族や老人、お世話になった
素晴らしい元部下の人達を労わり
たい。これからは、自分も労働
しなければ。

うー 敬い奉仕すること。 人間
を信じ敬うことにより健康的な
人間関係が得られるばかりでなく、
安らぎが得られる。身近な町内会、
同窓会等から奉仕し始めた。

えー エンジョイ。 ゴルフ、デ
ンスが面白くなった。茶道、
ダンスを通じ、交友の輪を現。元
自衛官以外の老若男女に広げて、
家内ともどもエンジョイしている。
笑顔。童顔は好感を与え、和やか
にする。しゃべり方は粗大ゴミ。
天真爛漫な子供の頃の明るい笑顔
を取り戻したいものである。

おをー 男らしい優しさ。
入隊数年目頃からお蔵入りを
して優しさを宝の宝。私が心を開
いて優しく心をもつて人に接した
時、素敵な友が増えた。優しさを
大いに使っていく。奥義の追
求。謡、お茶、篆刻等奥が深い。
自分の納得の行く迄、一生かけて
求め続けたい。

何時も明るく、若々しく、ワン
ダフルなおしどり夫婦となって、
これからも30年、40年……と長生
きたいものである。

「お父さん。40年も生きるんで
すか、ボケないでね」と妻の声。
臨終の頃、若し人生を回顧できる
ならば「人生素晴らしい。皆
さん有難う。」と心から言えるよ
う、平成の人生を行って生きたい。

光陰矢の如しと
か、定年後二十年
の星霜が流れ警察
予備隊創設より四
十年が過ぎ、当時
と最近の自衛隊の
状況を見ると今昔
の感を深くしま
す。つい先日、信
友に何かを依頼
され文章は苦
手ですが、表題の
エピソードでもし
て重筆をとりまし
た。

警察予備隊創設混乱期の思い出

岡 偉之 輔

さて、昭和二十
五年夏も過ぎよう
としていた頃創設
されたばかりの予
備隊で全国から幹
部要員を募集する
ことになり各県で
採用試験が行われ
た。当時陸士が
海兵等の出身者はいわゆるパージ
が解除されず入隊は出来なかつた。
私は宇都宮で応募し偶然にも一等
警察士として合格した。入隊は翌
二十六年二月の通知を受けた。任
命書は二月二十六日越中島の総隊
監部で行われたが、その前日、大
東京は大雪に見舞われ市内の交通
は寸断されているような状況だっ
たが、何とか越中島にたどり着き
任命書を持っていた時思ふに人物
に出合つた。矢口弘平君である。
彼は旧軍時代宇都宮歩兵第五
十九連隊の同年兵で幹部候補も一
緒に受けた戦友である。昭和十五
年八月私が中支派遣軍に転属した
時彼と別れてからお互いに音信不
通であつたが思いもかけず、又思

わぬ場所と再会したのである。そ
の後又々思いもかけない出来事が
重なることになろうとは、その時
考えも及ばなかつた。

その経緯はこうである。私が任
命された階級は一等警察士、矢口
君は二等警察士であつた。そこで
彼のプライドが傷つけられ、彼曰
く「お前が士で俺が二等士とは怪
しからん、俺はトスカに來た。俺
は入隊をやめた」と席を付けて帰
つたまま翌日の辞令交付には姿を
見せなかつた。

私はそのまま入隊、認識番号五
八八八二。今は亡き田口敬一氏が
私と一番近い、日給五百円の同じ
一士で同日入隊した。新任幹部の
オリエンテーション約一週間を越
中島で、集合教育を豊川で約一ケ
月、その後秋元哲雄君も一士で一
緒に過ごした。教育終了後間も無
い二十六年四月、私は第二管区美
幌部隊に転属の命を受けた。美幌
という地名を聞くのは私は生れて
初めてである。北海道にあること
は確かだが、地図でやとと美幌と
いう町を見つけてびっくりした。

網走番外地の近くではないか。も
しかすると人が余り住んでいない
のではないかと思つた。

これはえらいことになつたとい
やな予感を抱きながら、花見の済
んだ内地を出発、雪隠時代の十
勝を越えて、札幌から十数時間も
汽車にゆられて天長節の深夜美幌
なる駅に降り立った。一緒に赴任
したのは全国各地から集まつた通
信職種幹部十名位だつたろうか。

迎えるトラックに乗せられ真つ暗
な山の上へ連れてゆかれ狐火の明
けて来よう駐屯地に着く。夜が明
けて分かつたのだが此処は旧軍の
飛行基地があつたところで、当時
建物の二階が結核療養病院、一階
が予備隊の隊舎となつてゐた。こ
こで偶然が起つた。予備隊に入
隊しなかつた筈の矢口君が部隊副
官として勤務していた。思ふに
こゝで再会したのである。聞け
ば、私の任命日から一週遅れて、
予備隊側の要請で入隊したとのこ
とである。着任後間もなく部隊の

編成式が行われた。そこで又々私
は驚いた。編成された部隊は特科
連隊だつたのである。確か私の転
属先は第二通信隊の苦であつたの
に、どうして砲兵部隊等に編入さ
れてしまつたのか、私の命課は
連隊本部の「陣地選定係」とい
う職務である。一体陣地選定係と
は如何なることをするのかと矢口
副官に尋ねたところ、「どうせ砲
の一門も持っていない砲兵連隊だ
から、しばらく適当にお茶をにご
していればいじだらうとのこと、
それから毎日毎日塩ホッケばか
りの隊食を食つては寝食つては寝
の日が続いた。

その頃恵庭で編成中の第二通信
隊では、内地をとうに出発してい
る筈の編成要員通信幹部が行方不
明で大さざわざをしてゐた。総隊総
監部通信課に問い合わせたところ、
命令違ひでその者達は現在美幌駐
屯地に赴任していることが判明し
た。急遽私達は恵庭転属となり、
美幌には一ヶ月程滞在しただけで
ある。矢口君とは又そこで別れた。

第二通信隊に着任したが、通
信器材と名のつくものは殆ど無く、
射撃訓練とか行軍演習程度しか出
来なかつた。当時隣町千歳には朝
鮮行きの米軍が充満し、島松演習
場では日夜大砲の実射訓練が行わ
れ、灯ともし頃ともなれば千歳の
街中に内地から渡つて来たパンパ
ンが繰り出し、その数約三千名と
も言われ、終夜彼女等の嬌声と米
兵のわめき声が絶えなかつた。

全国の予備隊で隊員の身上調査
が再度行われ、経歴詐称等で幹部
が免職される事態が起つたのもそ
の頃である。私が恵庭に転属して
間もなく、久里浜に総隊学校が開
校、私はBOC第一回生として
入隊することになった。北海道に
渡つて僅か二、三ヶ月後のことであ
る。当時通信学校は総隊学校第
三部といつた。入校して又々
驚いた。美幌にいる筈の矢口君が
有線科の教官として私達の前に
現れたではないか。その頃はろく
な教本もなく、教育といつても米
軍マニュアルの直訳と旧日本軍の

教本をミックスしたような内容だ
つたような気がする。教育期間も
短く約一ヶ月位だつたらうか、私
達の教育終了間際越中島の通信課
が拡充されたことになり、通信卒
業生の中から成績良好の者十名程
度を転属させるといふニュースを
矢口君が教えてくれた。よし何と
か内地に残ろう。恵庭などという
ところは二度と戻りたくない。
私は悲壮な決心をして矢口君を例
の黒船会館に誘ひ「パイやりなら
か何やモゾク」と密談を重ねた。
そんなこともあつて八月に卒業と
ともに越中島の通信課に転属する
ことが決まつた。その通信課に又

私もはや退官後十有五年を過ぎ
馬齢も六十歳の半ばを迎え身体
の不調はもとよりの忘れも多くな
るなど老現現象は、好むと好まざ
るにかかわらずやってくる。
これに對し私は囲碁で楽しんで
います。私達は今更プロ棋士にな
るなどできませぬが高士になる
術などの勉強の必要はありません。
「暮はむずかしい」とみられてい
ますが決してむずかしいものでは
なく楽しいゲームの一つです。春
夏秋冬何時でも盤と碁石と友達一
人いたら、いやいや一歩づつ
時だつて楽しく一時を過ごすこと
ができ、かつ脳細胞を刺激し活性
化をはかることができます。

また音楽の才能は全くない私で
すが、腹から大声を出し漢詩を吟
ずる、腹から挑戦を出し、情報
過多によるストレスの解消をはか
るよう心がけています。平成二年
十月七日山梨県富士吉田市の富士
急ハイランドにおいて、日本詩吟
学院岳道の全国大会が催され、
北は北海道から南は九州までの愛
好家二千数百余人の方々が一堂に
集ひ、詩を吟ずるのを拝聴する機
会をえて秋の一日を楽しく過し
ました。

この中で八十歳を過ぎた方々が
又矢口君が転属して来て今度は同
僚として勤務することになった。
僅か半年位の間にあつたことと
振り廻された創設混乱期の私の身
辺もやつと落ち着き、このあたり
からその後の長い自衛隊生活が始
まつたのである。

今にして思へば、予備隊創設当
時は試行錯誤の繰り返しの時代であ
り、信じられないような事態が公
然と行われていたのである。私の
生涯の方向が略々決定付けられた
時期でもあり、旧友との再会と
から私の運命が流れて行つた
遠い日の想い出である。

老いに対する些かの抵抗

小林英宗

朗々と吟じられ壮年をも凌ぐ元氣
さに只々驚くのみで未だ自分のい
たらなさを深く反省しました。
青春とは人生のある期間を言う
のではなく心の様相を言うのだ。
逞しき意志、優れた創造力、炎
ゆる情熱、怯懦をしりぞける勇
猛心、
安易を振り捨てる冒険心。
こういう様相を青春と言うのだ、
年を重ねただけで人は老けない。
これは米国の幻の詩人といわれ
るサムエル・ウルマンの青春とい
う詩の一節です。また年を重ねた
だけで人は老いなく理想を失う時
に初めて老いにくる。
人は信念と共に若く、疑惑と共に
老ゆる。人は自信と共に若く、
恐怖と共に老ゆる。希望ある限り
若く、失望と共に老い朽ちる。歳
月は皮膚のしわを増すが、気持ち
のちやう或は考え方如何によつて
人生を心豊かにまた若々しく過ご
せるか。この詩は教えてくれます。
老年の心にも青春が映って言葉で
表わせない感情が湧き出てきます。
この詩によって新しい自己を発
見し意識改革をはかりつつあるこ
の頃です。また、老齢化という言
葉を禁句とし青春に生き続けるこ
ともまた宿命と考えています。

老いにくる。人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。歳月は皮膚のしわを増すが、気持ちのちやう或は考え方如何によつて人生を心豊かにまた若々しく過ごせるか。この詩は教えてくれます。老年の心にも青春が映って言葉で表わせない感情が湧き出てきます。この詩によって新しい自己を発見し意識改革をはかりつつあるこの頃です。また、老齢化という言葉を禁句とし青春に生き続けることもまた宿命と考えています。

#

思い出の訓示

森 繁 実

隊友会の米国研修旅行に参加、出国したのは平成二年九月二十三日であった。時恰も大相撲秋場所千秋楽の前日であり、北京アジア大会が開幕したばかりであった。北勝海が勝つか旭富士が勝つか、アジア大会での日本選手の活躍を気にしながらの出発であった。旅行の日程は重なり、多岐にわたる。被災地支援、駐屯地業務、各種支援等に創意工夫を重ねて思い切った施策を遂行したことが今も鮮明に蘇る。就中、東京オリンピック大会の支援は一生の思い出として忘れることは出来ない。近頃のことであるが、重要書類箱を整理していたら「陸上競技支援隊の編成に結ぶに当り訓示」の折り畳み文が、出て来た。恐縮とは思いますが、その全文を掲載させてもらい、信友の関係者の思い出の一助とした。

「秋晴れの良い天気のもと、本日ここに陸上競技支援隊の編成を完了し、名実共にその陣容を完全にしたことは諸君と共に誠に欣快に耐えないところである。思うに第十八回オリンピック東京大会は参加国も百ヶ国に達し、その規模の祭典はいよいよ目録の間に迫りつつある。今や聖火は本土に入り、若人の腕に高く掲げられ、東京へ、東京へと一歩一歩近づき、全世界の眼は一日と東京に集中されて来た感じが深い。満を持して来た自衛隊も本日ここに、全支隊の編成を完了し、支援態勢を完璧ならしめた事を思う時、我々の使命の重大なるをひしひと感ずる次第である。我々支援隊は、支援集団長梅沢隆将の統率のもと、全自衛隊の使命の一翼を担うものであるが、その代表選手として誓ってその使命の完遂を期さねばならぬと覚悟を新たにすもの

である。以下陸上競技支援隊長として今更こと新しく要望する事項はないが、一言所信を開陳し訓示としたい。

一、「自信をもって任務を完遂しよう」ということである。顧みるに我が通信大隊は昨年来、今日まで本番通りのリハサルを過去三回も体験し、何れも成功裡にその任務を成しとげた。また数多い支援隊や隊が編成されたが、建制部隊のみをもって編成した支援隊は、我々陸上競技支援隊唯一つであらう。この事は最高の団結を堅持していることを意味するものである。なお支援任務が部隊本然の通信支援であり、直ちに支援行動に直結している強みがある。以上の三点は我が支援隊の特徴であり、絶対の自信はここにあると信ずる。諸君大いに自信をもって任務の完遂を期そうではないか。

事務局だより

通信事務費等負担のお願い

信友の皆様には、会育成のため常日頃御高配を賜り事務局一同感謝してやまない。さて、会運営の予算状況は、毎年の「信友」誌上及び総会での会計報告の通りであります。会運営のための基金が不足の状況にあり、会費、御芳志等の積立金を充てて充たしてまいりましたが、昨今通信連絡費、慶弔費、会誌信友の発行経費等の支出が、新入会員等から頂く終身会費等の年度収入を上回る状況であり、このままですと会誌の発行、連絡事務等のための基金が近々のうちに底をつく状況になって参りました。

地方懇談会

地方居住会員の親睦のための地方懇談会を昭和六十三年一巡し、平成二年度別編の通り西方で開催させて戴きました。関係者の皆様に篤く御礼申し上げます。引き続き各方面で開催させて頂く予定でしたが、各般の事情により、本年は休止し、明後年から再開したいと検討中です。実現について関係各位の御協力をお願い致します。

会員勧誘のお願い

会員数は平成二年九月現在で、一〇一〇名となりました。このうち東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏居住者は約六割です。事務局では、新入会幹部の方に入会の御案内を差し上げるよう努力しておりますが、該当者の掌握に洩れがあることも考えられます。また、旧い方で未だ入会されていない方もおられますので、会員の皆様から是非おさそい頂ければ幸いです。よろしくお願ひ致します。

信友会名簿の更新

皆様にお求め頂いている会員名簿は、概ね三年毎に更新発行しております。その間の異動等は、「信友」誌上でお知らせしております。住所等は担当幹事の大変な努力で、極めて正確であると自負しております。今回、改訂を行い配布いたします。従来同様、有料(千円)です。

後記

●世は通信電子の時代、防衛に占める地位も益々向上し、現役諸官は新プロジェクト達成のため敢闘努力しています。健康をお祈りしたいと思ひます。

永野茂門議員の再出馬

永野参議院議員は別稿の通り、次期参議院選に出馬を決意されておられます。信友会会員である永野議員が、引き続き国政の場で御活躍できるよう、皆様の有形無形の御支援をお願い申し上げます。

叙勲(秋) おめでとうございます。

勲四等旭日小綬賞 栗原 育朗(元 副処長)
勲七等青色桐葉賞 飯森 菊治(元 5 通大)
“ 佐藤 孝司(元 通信団)

隊在職間です。私が自衛隊に就任したのは平成二年九月二十三日であった。時恰も大相撲秋場所千秋楽の前日であり、北京アジア大会が開幕したばかりであった。北勝海が勝つか旭富士が勝つか、アジア大会での日本選手の活躍を気にしながらの出発であった。旅行の日程は重なり、多岐にわたる。被災地支援、駐屯地業務、各種支援等に創意工夫を重ねて思い切った施策を遂行したことが今も鮮明に蘇る。就中、東京オリンピック大会の支援は一生の思い出として忘れることは出来ない。近頃のことであるが、重要書類箱を整理していたら「陸上競技支援隊の編成に結ぶに当り訓示」の折り畳み文が、出て来た。恐縮とは思いますが、その全文を掲載させてもらい、信友の関係者の思い出の一助とした。

「秋晴れの良い天気のもと、本日ここに陸上競技支援隊の編成を完了し、名実共にその陣容を完全にしたことは諸君と共に誠に欣快に耐えないところである。思うに第十八回オリンピック東京大会は参加国も百ヶ国に達し、その規模の祭典はいよいよ目録の間に迫りつつある。今や聖火は本土に入り、若人の腕に高く掲げられ、東京へ、東京へと一歩一歩近づき、全世界の眼は一日と東京に集中されて来た感じが深い。満を持して来た自衛隊も本日ここに、全支隊の編成を完了し、支援態勢を完璧ならしめた事を思う時、我々の使命の重大なるをひしひと感ずる次第である。我々支援隊は、支援集団長梅沢隆将の統率のもと、全自衛隊の使命の一翼を担うものであるが、その代表選手として誓ってその使命の完遂を期さねばならぬと覚悟を新たにすもの

平成2年度信友会会計報告

(単位:円)

収 入	支 出
前年度繰越 2,025,903	慶弔費 65,910
終身会費 500,000	通信・事務費 124,400
名簿代 39,000	印刷費 212,901
利子 9,598	印 刷 30,000
寄付等 132,485	次年度繰越 2,273,775
計 2,706,986	計 2,706,986

以上のとおり報告します。

平成2年12月31日

信友会 幹事 林 巖 ◎

幹事 熊谷 猛 ◎

監査の結果相違ありません。

平成2年12月31日

信友会 監事 森 輝雄 ◎

監事 青沼 幹夫 ◎

訃報

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(氏名)	(御逝去年月日)	(御住所)
森田 英 男	63. 2. 25	〒158 世田谷区東玉川1-19-5
石 濱 健 吉	1. 5. 29	〒575 四条市岡山東1-5-36 忍ヶ丘寮
井戸田 晟	1. 10. 19	〒485 小牧市光ヶ丘3-9-6
越智 清 司	1. 11. 2	〒351-01 和光市白子3-40-18
磯部 只 輔	2. 3. 1	〒239 横須賀市ハイランド4-31-13
小川 野 晴 治	2. 5. 18	〒164 中野区中野5-66-8
太田 要二郎	2. 7. 2	〒152 目黒区平町1-16-25
	2. 7. 9	〒331 大宮市日進町1-800-57
	2. 9. 22	〒979-27 福島県相馬郡新地町釣師53-1

とさせていただきますので、同封の郵便振替用紙で御送金をお願いいたします。